名大構内の森で 楽しい「秘密基地づくり」

千種区の魅力を探る「千の種あかし隊」の第十一回、「ボクのワタシの秘密基地づくり」（子ども建築研究会、千種区役所主催）が十一月十日、名古屋大学構内の森で行われた。

緑豊かな森の中での秘密基地づくりは大好評で、今年が三回目。親子十六組四十三人と建築科の大学生ら約四十人が参加した。

今年のテーマは、基地でつながる「ヒミツの村」。親子チームはプライベート空間を、名古屋大学、名古屋市立大学、愛知淑徳大学の学生チームは各基地を結ぶパブリックな空間を制作し、村の集落を作った。

同研究会の小松尚・名大大学院准教授と、名大、名市大、名古屋工業大学の学生十五人が参加者に基地作りをアドバイスし、制作を手伝った。なごや東山の森づくりの会も協力し、会員三人が麻縄の縛り方やノコギリの使い方を指導した。

材料は竹と麻縄、麻布、枯れ枝など自然素材のみ。竹は森の生態系を壊すため、増殖しないよう伐採したものを使った。

親子は八班に分かれ、それぞれ大きな木やくぼ地などを拠点に、基地作りを開始。約五時間で、竹の葉で葺いた屋根のある家、三階建ての見張り台、滑り台やブランコ、ターザンごっこロープなどの遊具、木と木をつないだ空中回廊など、遊び心満点の秘密基地が完成した。完成した基地は休日に遊べるよう、十日間保存された。

宮根小学校二年の牧野穂高君、幼稚園年長組の

竹と麻ヒモで組み上げた基地は、居心地ばつぐん！